

流山グリーン
フェスティバル

江戸川大学生ががんばる

5月3日GW初日の土曜日。最高気温は25度の夏日。眩しくて目を細めずにはいられない。快晴に恵まれ、今年もエド・アド、現代社会学科、情報文化学科の学生が参加する「流山グリーンフェスティバル」(主催:流山グリーンフェスティバル実行委員会)が開催された。(文:大井友香子 撮影:守谷信)

エド・アド、今年もステップアートの緑の祭典をかざる

毎年3万人前後の来場者を記録する流山グリーンフェスティバルとはなんなのか、どうして江戸川大学と連携して開催されているのか? 話は、つくばエクस्प्रेसが開通した9年前にさかのぼる。区画整理事業・鉄道事業など便利な町づくりが進められるにしたがい失われがちな緑を守り、緑を回復するため「緑をいかに育てる」活動の一環として「流山おおかの森の近くで勉強している大学生にも緑を守り、いかにイベントに参加してもらいたい」という環境問題を積極的に研究している江戸川大学にも流山から声がかかった。



上: ステップアート、ついに完成! 笑顔の10代目エドアドのみなさん。
下右: ステップアート制作中。階段に、シートを貼付けるのが難しく、悪戦苦闘。下左: 流山おおかの森S・Cより、制作風景を撮影。

今年開催されたグリーンフェスティバルのテーマは「緑がある暮らし」。ステップアートや花絵、江戸川大学ブリスなどたくさんの方が参加し、それぞれの能力を発揮する良いステージとなった。4月27日、エド・アドに属する学生の姿が流山おおかの森に集まった。本番に向けて準備だ。この日の仕事はステップアートの制作だ。階段をキャンバスに見立てたのがステップアートだ。離れて見ると一枚の絵に見える。グリーンフェスティバルの記念撮影スポットだ。3年前のことだ。「グリーンフェスティバルには記念撮影できる場所がない。だったら、つくろう!」この自主提案は今年もエド・アドの学生たちによって続けられている。



今年の準備には15人の学生が参加。途中で階段とアートシールに誤差が生じ、不穏な空気に...

学生目線で花のある暮らしの提案

現代社会学科は「花のある暮らし」を、大学で学んだ知識を生かして来場者に提案していた。「自宅に花を飾りたい」と考えている

そこで、それぞれのライフスタイルにあったドライフラワーを使った小物作りのブリスを出展。誰でも簡単にいつもの生活に花を演出することができる。講習が始まって2〜3時間、あつという間に用意していたドライフラワーがなくなっていた。

しかし、エド・アド社長や3年生の臨機応変な対応で、なんてことなかったかのようにステップアートは完成した。ハプニングが起きてても市役所や先生に頼ることなく「ここはこうしたら大丈夫」と、学生みずからで行動していく。「これくらいなんてことはないよ」という声はたくさん。今年もエド・アド設立10周年を記念して、各代理店との連携も進められている。

学生記者募集!

学生記者クラブは、学内外のイベントや、部活動、サークル活動などを取材します。記事は「江戸川大学学生新聞」として発行するだけでなく、ウェブにもアップして世界に向けて発信していくプロジェクトです。「Journalism」とは「発見や感動を相手に伝えること」。あなたもジャーナリストになろう!

N棟1階の受付にお気軽に声をかけてください。連絡先: TEL(04-7152-9908)E-mail(kouhou@edogawa-u.ac.jp) 企画総務課